

フィルム・リーディング・セッション

—症例から学ぶ超音波診断—

司会・解説

横浜市立大学・市民総合医療センター 放射線部 竹林 茂生

コメンテーター 内科医の立場から

横浜市立大学・市民総合医療センター 消化器病センター

沼田 和司

【症例概要】

症例 1

50歳台、男性。肉眼的血尿。腹部音波で肝、および右腎腫瘍を指摘される。
(年前に右眼球摘出術をうけている。)

症例 2

50歳台、男性。肉眼的血尿、軽い背部痛が持続。

症例 3

10歳台(前半)、女性。2日前より下腹部痛。一ヶ月位前にも、同様症状、あり、
そのときは3日間続く。

症例 4

10歳台、男性。2年前より、排尿時に、恶心、頭痛を訴える。

症例 5

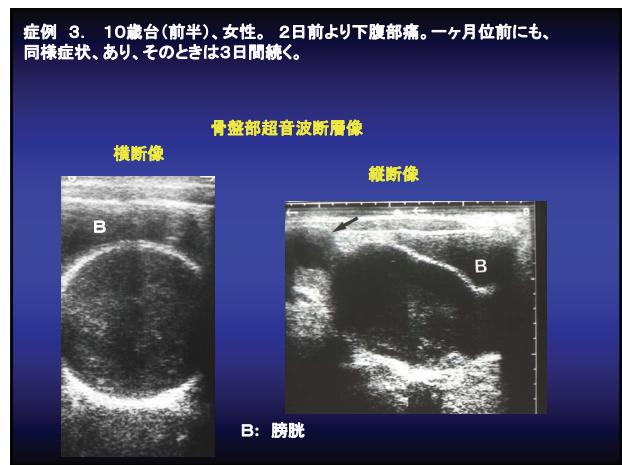
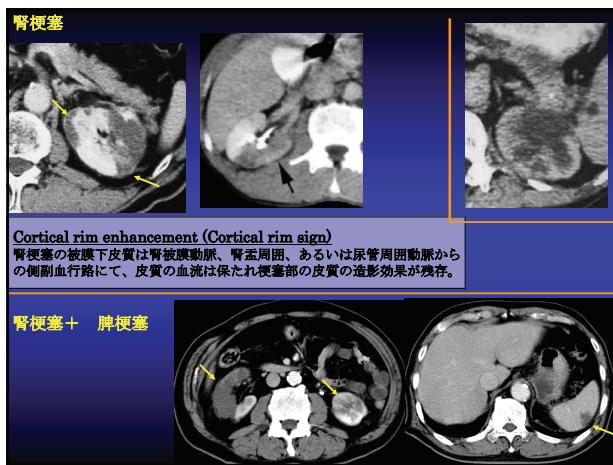
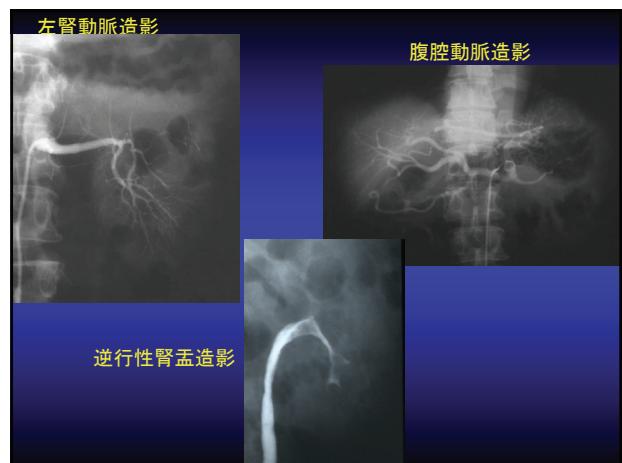
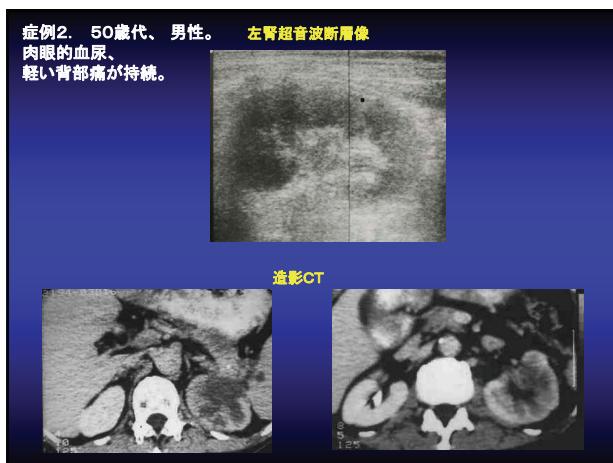
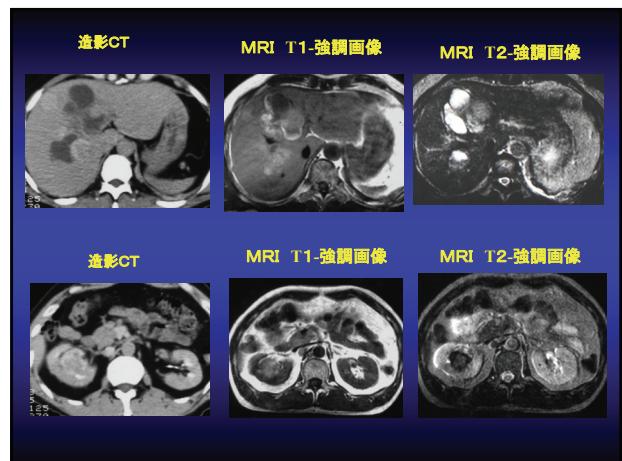
40歳台、男性。大量血尿。膀胱鏡にて血管腫の疑い。
(肝硬変の既往あり、5年前、脾臓摘出術を受けている。)

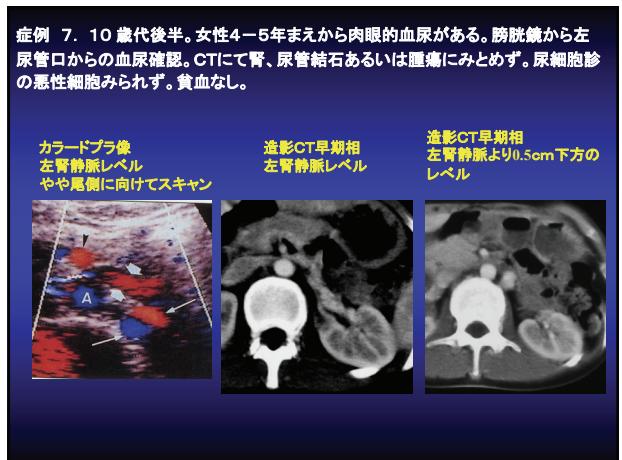
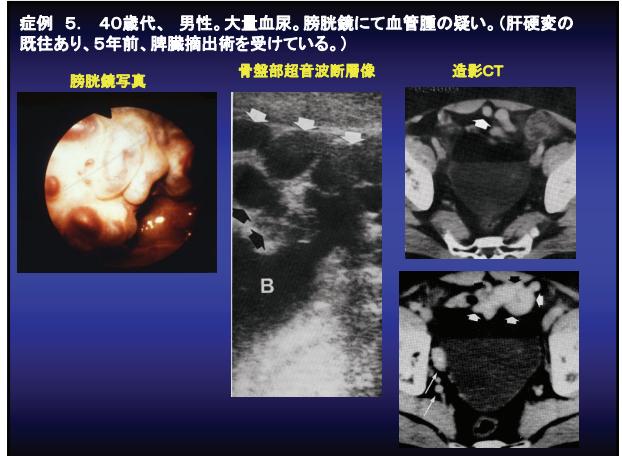
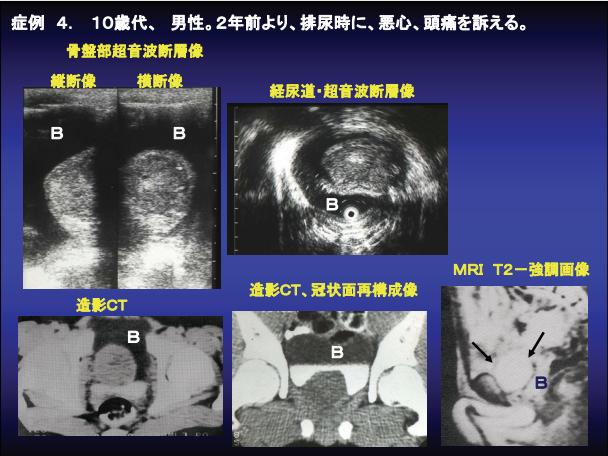
症例 6

30歳代後半、女性。肉眼的血尿、膀胱鏡から左尿管口からの血尿確認。
CTにて腎、尿管結石あるいは腫瘍にみとめず。尿細胞診の悪性細胞みられず。
貧血なし。

症例 7

10歳代後半、女性4-5年まえから肉眼的血尿がある。膀胱鏡から左尿管口からの血
尿確認。CTにて腎、尿管結石あるいは腫瘍にみとめず。尿細胞診の悪性細胞みら
れず。貧血なし。





フィルムリーディング・セッションでの各症例へのQ&A

【症例 4 に対する質問】

小児に多いのでしょうか？成人では経験したことがありません。
発見年齢別頻度を教えて下さい。

【回答】

膀胱の paraganglioma は本邦では 37 例、11 歳から 82 歳(平均 46.2 歳)の報告があります。元々、報告例少ないですが、とくに小児に稀という事はないです。

【症例 5 に対する質問】

門脈 → … → 尿膜管静脈 → … → IVC の「…」の部分は paraumbilical vein を通るのでしょうか？

【回答】

門脈 → 下腸間膜静脈 → 脾部周囲の静脈瘤 → 拡張した尿膜管静脈 → 膀胱静脈瘤の血流状態です。

【症例 6 に対する質問】

nutcrackersynd.と診断するためのUSの必須所見をもう一度まとめて教えて下さい。

【回答】

- 1) 左腎静脈の拡張所見(nutcracker 現象): 遠位部径が近位部径 の 1.5 倍以上に拡張。かつ大動脈と SMA の間の距離が4–5mm 未満。
- 2) 側副血行路(a. 拡張した左精巣、あるいは卵巣静脈の存在: 左腎静脈より尾側に真っ直ぐ走行する静脈、b.拡張した後腹膜静脈の存在(名前もつけられていない後腹膜の静脈で、腎静脈より、わずかに下方の高さで、椎体の左前側方に位置し、左精巣、あるいは卵巣静脈と異なり、短く尾側にスキャンしても2-3cmぐらいしか追えない。上行腰静脈(超音波ではわからない)に連続している。腎門部の拡張した腎孟周囲静脈(正常の腎血管とは別に多発結節状にみえる。)カラードプラ像にて、拡張した左腎静脈の血流速度の低下ため、流速レンジを下げないとカラーフローの描出がわるい(パルスドップラによる血流サ

ンプリングにて流速遅いことを確認できる 20cm/sec 以下が多い。)上記の側副血行路がカラーフローを呈するので側副血行路の存在は容易にわかる。

【症例 7 に対する質問】

側副血行路の発達により左腎静脈の拡張が認められず、圧がかかっていないと思われますが、血尿が確認されるのは何故でしょうか。

【回答】

本症例では側副血行路が発達とともに、左腎静脈の拡張はみられなく、ご指摘のように血尿の消失が期待されますが、実際、腎静脈の圧測定では大動脈と SMA によって挟まれている前後で 2.0mmHg の圧差がみとめ(ボーダライン左腎静脈高血圧)、まだ、腎内腎静脈に圧がかかっており、血尿を生じていると推定します。